



立命館大学大学院

教職研究科

実践教育専攻

教職大学院

2027

Graduate School of
Professional Teacher
Education

Major in Teaching Profession and
Educational Practices

連携機関

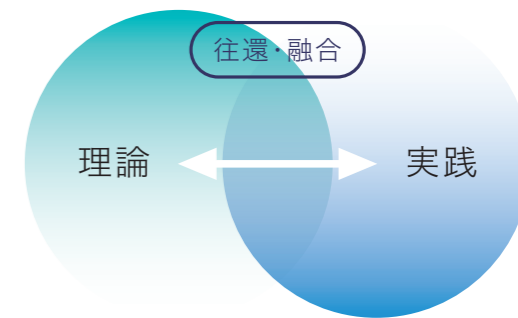
京都府教育委員会 | 京都市教育委員会 | 滋賀県教育委員会 | 大阪府教育委員会 | 大阪市教育委員会

学び続ける 教師を 目指して。



教職研究科(教職大学院)は教員養成分野の 専門職大学院です。

いじめや不登校などの複雑化・深刻化する教育課題への対応、「主体的・対話的で深い学び」を実現する探究型の授業の充実、GIGAスクール構想やグローバル化課題への対応など、学校現場は急速な変化の中にあります。このような状況で教員にはより一層の高い指導力、実践力が求められており、その力を高めていくのが教職大学院です。教職大学院は今後の教員養成・現職研修の中核を担うとされています。教職研究科では大学院での授業に加えて、教育機関へのフィールドワークや長期の実習を行います。理論と実践を往還する学びを通して、教員としてのより高度な資質能力を獲得することができます。



2027年4月、教職研究科は10周年を迎えます

2017年4月に、西日本で初めての私立大学単独の教職大学院として設立された立命館大学大学院教職研究科。10周年を迎えるにあたり、様々な取り組みを企画中です。詳しくはHP等でご案内しますので、ご期待ください。今後も学び続ける教師を支える大学院として発展し続けます。

《ごあいさつ》

立命館大学大学院教職研究科
研究科長

森田 真樹



なる独立行政法人教職員支援機構立命館大学センターを本研究科に開設しました。各教育委員会のプラットフォームとして、高度な教員研修プログラムを開発・実施しており、本研究科の院生は、これら教員研修プログラムに参加して学びをさらに深めています。

ICTの学校現場への急速な導入で学習環境は一変し、生成AIの発展は教育活動そのものの再設計を迫っています。いじめや不登校、貧困、国際化に伴う多文化共生など、学校現場の教育課題は一層複雑化し、多様な個性や特性、背景を有する子どもを包摂できる学校のあり方が模索されています。学校とは何か、共に学ぶことの意味は何なのかなど、学校の「当たり前」を改めて問い直し、新しい教育的価値を見出していくことが避けられない時代。そこでは、「教える専門家」から「学びの専門家」へと転換した「学びをデザインする高度専門職としての教師」が求められています。

これからの「令和の日本型学校教育」を担う教師が学ぶ場として、教職大学院が果たす役割も、ますます高まっています。本研究科では、学部新卒院生には、「地球市民」としての志を獲得しながら、自らの強み専門性をさらに伸ばし、高い資質能力をもった教員となるための学びを、現職教員院生には、これまでの実践を対象化し、理論と実践の往還・融合を図る主体としての力量を高め、新しい時代の教育実践を組織的にマネジメントするリーダーとなるための学びを用意しています。

「未来を信じ、未来を生きる」という言葉は本学の末川博名誉総長のことばです。教師は未来の社会を築く子どもたちを育てる重要な使命を担う専門職です。本研究科とともに学び、未来の教育を創造していく皆さんを、本研究科は全力で応援します。

立命館大学大学院教職研究科は、2017年4月に、西日本で初めての私立大学単独の教職大学院として設置されました。2026年度で10年目を迎え、全国各地で活躍する修了生は220名を超えました。

私立大学が教職大学院を設置する意義は、独自の教育理念や多様な教育資源を最大限に活用し、社会の期待に応える高度な資質能力をもつ教員を責任をもって育成することにあります。本研究科では、立命館学園の建学の精神である「自由と清新」、教育理念である「平和と民主主義」にもとづき、「平和と民主主義の精神、地球市民としての資質を持った、人間力のある教育実践者」の育成を人材育成目的として掲げています。この目的のもとで、新しい教育課題に「チーム学校」の中核として対応できる教員、子どもとともに未来を拓くことができる教員の育成を目指しています。

本研究科は、京都府、京都市、滋賀県、大阪府、大阪市という、府県を超えた5つの教育委員会と連携協力の全国初の試みによって、院生一人ひとりの課題意識に応じた多様な学びの機会を提供しています。学部新卒院生が非常勤講師をしながら学ぶしくみ、全国の現職教員がオンライン受講で学ぶしくみなど、先進的な取り組みも導入しています。

2019年には、独立行政法人教職員支援機構の近畿地区の拠点と



COOPERATION

連携について

一 連携機関からのごあいさつ

京都市 教育委員会	京都府が「目指す人間像」に掲げている「めまぐるしく変化する社会において、自ら主体的に行動し、よりよい社会と幸福な人生を創り出していくためには、教育に関わるすべての人が、子どもたちを見守り、支えていくことが、不可欠であると考えています。 立命館大学大学院教職研究科におかれは、総合大学の多様な学びの環境を活かした、先進的な取組を進めておられるところであり、今後も、より高い専門性・資質能力を備えた教員の育成を図られることを期待し、京都府教育委員会としましても一層の連携を図ってまいります。
京都市 教育委員会	「一人一人の子どもを徹底的に大切に。」京都市の教育の理念です。 京都市教育委員会では、立命館大学教職大学院が目指す人間性ある教育実践者の養成の取組をしっかりと支え、市立学校全体を大学院生の学びのフィールドとするなどの連携協力を進めています。 立命館大学ならではの優れた学習環境の下、学校現場に山積する教育課題に対応できる確かな理論と優れた実践力・応用力を兼ね備えた、子どもたちを徹底的に大切する教員の養成に期待しています。
滋賀県 教育委員会	滋賀県では「未来を拓く心豊かでたくましい人づくり」の基本目標のもと、子どもの力を引き出し、「夢と生きる力」を育てるため、大学との連携等により研修・研究内容を充実させ、教職員の指導力向上を目指しています。 立命館大学教職研究科の多様な学びの環境、特色ある教育内容を通して、確かな指導理論と実践力を身に付けた教員の教育現場での活躍を期待しております。滋賀県教育委員会といたしましても、貴学との一層の連携に努めてまいります。
大阪府 教育委員会	大阪府では「人生を自ら切り拓いていく人」「認め合い、尊重し、協働していく人」「世界や地域とつながり、社会に貢献していく人」という育む3つの人物像を掲げ、研修等の充実により、教員一人ひとりの資質向上に向けた取組を進めています。 立命館大学教職研究科の特色ある教育内容を通し、教育の本質を見極めながら、新しい教育課題に対応し、「学校」のチーム力を高めることができる資質能力を持った教員の育成に努めていただきたく思います。
大阪市 教育委員会	大阪市では、すべての教員が自らのキャリアステージや課題に応じて、主体的に学びを選択・継続できる研修体系を構築し、教員一人ひとりの専門性を高め、教員自身が成長を実感できるようにするとともに、意欲的に職務に取り組める環境を醸成し、教員同士が互いに高め合い学び合う教員集団が形成されるよう取り組んでいます。 立命館大学大学院教職研究科におかれましては、高度な専門性と資質能力を備えた学び続ける教員の育成に向け、本市との連携をより一層深めていただくことを期待しています。

一 多様な連携協力校

「立命館大学大学院教職研究科連携協力校」として、京都府、京都市、滋賀県、大阪府、大阪市内の公立の小学校、中学校、高等学校及び、立命館の附属校で実習を行います。

公立校



3府県(京都府・滋賀県・大阪府)にまたがるキャンパス立地の強みを活かし5つの教育委員会(京都府・京都市・滋賀県・大阪府・大阪市)と連携することで、広域で多様な公立学校と連携をしています。本研究科では小学校や中学校のみならず、高等学校の連携協力校も多く確保しており、すべての学校種(小学校・中学校・高等学校)に対応した実習が可能です。

附属校



本学の京滋地区にある4つの附属校は、それぞれが各校の特色を活かして全国的にも先進的な教育を展開しており、SSH(スーパーサイエンスハイスクール)への採択、国際バカロレアの認定、小中高12年一貫教育、ICT教育など、様々な教育実践による成果を挙げてきました。こういった附属校において実習を行い、豊富な教育資源のもとで新しい教育実践を経験できることは、優れた実践力の獲得と確かな指導理論の確立を目指す院生にとって、大変有意義なものになります。

- ・立命館小学校
- ・立命館中学校・高等学校
- ・立命館宇治中学校・高等学校
- ・立命館守山中学校・高等学校

教職研究科の③つのポリシー

Diploma Policy

学位授与の方針

教職研究科は、学士課程における教員養成教育や教育現場での実践経験に基づき、教育活動に関する実践知の科学化と理論知の実践化について学際的に追究することにより、教育と学習の価値的な意義を深く理解し、社会的に要請される教育的課題に応える高度な専門的知識と実践的指導力を有するとともに、平和と民主主義の精神、地球市民としての資質を持った、人間力のある教育実践者の養成を目的とする。これを具体化するために設定した、以下の教育目標は、編成されたカリキュラムの各科目を履修し、本学教職研究科が定める修了要件に達することにより修得されたとみなし、これをもって教職修士(専門職)の学位を授与する。

- 学習指導、生徒指導の両者について、バランスの取れた指導理論と実践力を獲得している。
- 総合大学での学びを生かし、高い教科指導力と教科の専門性ととも、国際的に通用する課題解決型の教育実践力を獲得している。
- 教育をめぐる激しい変化の中で生じる新しい教育課題に対応できる能力を獲得している。
- 学級経営・学校経営の課題を組織の中で協働して解決に導ける力量を備え、新しい学校づくりの中核を担うリーダーとしての能力を獲得している。

Curriculum Policy

教育課程編成・実施の方針

教職研究科は、ディプロマ・ポリシーに示した教育目標達成のため、カリキュラムマップに示すように共通基本科目、専門実習科目、コース必修科目、コース共通科目から構成した、体系的性と整合性の担保された教育課程を編成する。

- 共通科目(基本科目)については、「共通基本科目」として区分し、原則として、学部新卒院生、現職教員院生が共通に学ぶこととする。しかし、両者の獲得している資質能力が異なる領域については、一部、別科目、別クラスを配置するなど、両者のニーズに対応する工夫を行う。また、学校現場や関連施設でのフィールドワークを組み入れて、理論と実践の往還を可能とする科目を配置する。
- 教員としての総合的な力量を形成するため、特に若手・中堅教員に求められる、授業力、生徒指導力、学級経営力、学校マネジメント力などを育成する「共通基本科目」を配置し、コース科目でさらに深い学びが展開できるような科目を配置する。
- 現場との深い関わりの中で実践的に学ぶ、充実した「学校における実習科目」を配置する。「学校における実習科目」は、「専門実習科目」として配置し、当該科目を教学の主要な柱として、学校現場での授業実践や授業担当以外の担任業務、生徒指導、特別活動等の実践と、その振り返りを組み合わせて展開する。
- 立命館の特色を活かした「臨床教育」「教育方法・学習科学」「国際教育」の3コース(履修モデルとしてのコース)を設定し、それぞれの領域での高度な力量を獲得させる「コース必修科目」を配置する。
- 最新の教育事情について精通し、あらゆる教育課題に対応することができる力量を備えた教員を育成するために「コース共通科目」を配置し、新しい学校づくりの中核を担うリーダーを育成する。

Admission Policy

入学者受け入れの方針

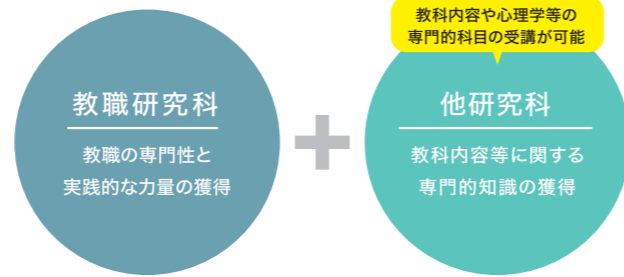
教職研究科は、学士課程における教員養成教育や教育現場での実践経験に基づき、教育活動に関する実践知の科学化と理論知の実践化について学際的に追究することにより、教育と学習の価値的な意義を深く理解し、社会に要請される教育的課題に応える高度な専門的知識と実践的指導力を有するとともに、平和と民主主義の精神、地球市民としての資質を持った、人間力のある教育実践者の養成を目的とする。そのため、教職への深い理解と基本的実践力を備えた、次のような条件を満たす人材を求める。

- 学部での教職の学びを通して、教員としての基礎的知識や指導力をもち、さらに、教員としてより高い指導力、専門性、実践力を身につけたいという高い意欲と熱意をもっている学生。
- 大きく変化する教育の中で活躍する教員として、新たな教育課題に対応していく力を、「理論と実践の往還」をはかる中で身につけたいという高い意欲をもった学生。
- 教科指導、生徒指導、学級経営、学校経営などの課題を組織の中で協働して解決に導ける基本的力量を備え、新しい学校づくりの若手リーダー教員を目指す学生。
- 教職経験の中で培った力量を、総合的にさらに高度化し、協働して取り組む新しい学校づくりの中核を担うリーダー教員を目指す現職教員。

教職研究科の⑤つの特長

FEATURE 01 総合大学の多様な学びの環境を活かした教学展開

教職研究科では、17学部、22研究科を有する私立総合大学としての強みを活かして、大学内の豊かな教育資源を活用した総合的な教員養成を展開します。教員採用に高い実績を誇る充実した教員養成教育と教職支援、他研究科での高度で専門的な学び、研究科を横断する各種プログラム、スーパーグローバル大学としての実績をふまえたグローバル化展開など、立命館大学全体の教育力を活かしながら、充実した教学を展開します。



FEATURE 02 3コースからの教育課題へのアプローチ

立命館大学の特色を活かした「臨床教育」、「教育方法・学習科学」、「国際教育」の3つのコース(履修モデル)を設定しています。院生は各自の課題意識に応じて入学後にいずれかのコースを選択し、それぞれのコースでより高度な力量を獲得することを目指します。他方で、特定の学習領域にとらわれない「共通基本科目」や、「コース共通科目」などの幅広い学びを通して、各自の得意分野の資質能力と、教員として必要とされる総合的な資質能力の両方を向上することができます。

臨床教育	教育方法・学習科学	国際教育
<ul style="list-style-type: none"> 多様化する児童生徒の諸課題(いじめ、不登校、発達障害、児童虐待、少年事件等)の本質をとらえ、関係機関と連携した課題解決の方法や、思春期・青年期の児童生徒の理解と支援のあり方などに関して、実践的・理論的に探究していきます。関係機関と連携した保護者支援のネットワークのあり方などにも目を配りながら、学校、家庭、地域社会などをフィールドとして、臨床教育領域の諸課題について、幅広く検討していきます。 教育と人間形成への理解を深めながら、児童生徒の発達課題への知見を踏まえた生徒指導・教育相談、教師と児童生徒間関係、保護者支援などに関して、深い理解と高い指導力の獲得を目指します。 	<ul style="list-style-type: none"> 「学習」「学び」を多角的に分析し、より高度な教育実践のあり方を探究します。 PBL※1、反転授業、アクティブ・ラーニングなどの双方向での協働的な学びや適切な評価方法を探究します。 「学習」「学び」を科学的に解明し、理論的枠組みに基づいた新しい教育実践に関して深い理解と高い指導力の獲得を目指します。 <p>※1 PBL：Project Based Learningの略称。「課題解決型学習」</p>	<ul style="list-style-type: none"> グローバル時代の教育のあり方を多角的に分析し、IB教育※2、グローバル教育、外国人児童生徒の教育、ESDやグローバル・シティズンシップ教育といったグローバル時代に必要とされている教育に関して深い理解と高い指導力の獲得を目指します。 英語教育や海外研修等に特化した国際教育ではなく、日常の教科指導や総合的な学習の時間等において実践可能な国際教育の内容や方法を探究していきます。 国際教育の視点から学校全体のカリキュラムをマネジメントできる力を含め、教科や学校種にかかわらず、国際教育を総合的に考え、実践できる教員を育成します。 <p>※2 IB教育：国際バカロレア (IB: International Baccalaureate) 機構が提供する国際的な教育プログラム。</p>

FEATURE 03 グローバル時代の教育に対応できる教員の育成

「国際教育」コースでは、IB(国際バカロレア)教育、グローバル教育、外国人児童生徒の教育、持続可能な開発のための教育といったグローバル教育領域でリーダーシップを発揮できる教員としての資質能力を向上することができます。「国際教育」について専門的に学ぶことができる教職大学院は全国でもめずらしく、将来的には本コースが国際教育の拠点としての機能を果たすことを目指します。グローバル教育領域でリーダーシップを発揮でき、「異文化を受容し、適応できるグローバル資質」を備えた教員へと変革させられるよう、海外研修プログラムを実施しています(大学からの一部補助金あり)。



FEATURE 04 3府県にまたがる5つの教育委員会との連携及び多様な連携協力校における充実した専門実習の実現



3府県(京都府・滋賀県・大阪府)にまたがるキャンパス立地の強みを活かし、5つの教育委員会(京都府教育委員会、京都市教育委員会、滋賀県教育委員会、大阪府教育委員会、大阪市教育委員会)との連携を通じた新しい教員養成を実現します。公立学校と立命館の附属校をあわせて小学校10校、中学校14校、高等学校10校の連携協力校(2026年3月現在)を配置することで、院生の多様な問題関心とマッチングした専門実習を行うことを可能にしています。連携協力校での充実した専門実習(現職教員院生は、原則勤務校での実習)を展開し、「理論と実践の往還・融合」を実現します。

FEATURE 05 多彩な学部新卒院生や現職教員院生との学び合い

全国各地の国立・私立大学からの進学者、全国の様々な公立学校や立命館附属校の現職教員など、学校種や教科のみならず、勤務している自治体や公立・私立の別なども様々な院生が在籍しており、多様なバックグラウンドを持つ院生同士との学び合いによって、教師としての力を高めていくことができます。



CURRICULUM

理論と実践を往還・融合させるカリキュラム

本研究科では、多様な公立学校と立命館の附属校の先進的な実践を活かしながら、教育現場と大学院での学びを往還させることで「理論と実践の往還・融合」を実現するカリキュラムを編成し、確かな指導理論と実践力を獲得します。

1年次から履修が始まる「教職専門研修」は、学部での教育実習とは異なり、連携協力校において、学習指導、生徒指導、学級指導、学校行事への参加、可能な範囲での校務分掌への関わりなど、学校現場での教員の全般的な業務に関わる実習を行います。実務を担う中で見出した課題を大学院の

学修と往還させ、本研究科教員の指導と支援のもとで、課題克服の方策を探究することで、高度な実践力を獲得することを目指します。

学部新卒院生は、連携協力校で実習を行い、1年次の夏期休暇を利用した「教職専門研修1」(3単位)、2年次春学期に実施する「教職専門研修2」(7単位)の10単位を履修します。現職教員院生は、本人の申請と審査によって、「教職専門研修」の一部の履修が免除される場合もありますが、「教職専門研修4」(3単位)は、現職教員院生全員が履修します。

カリキュラム構造

科目区分	共通基本科目 (6領域)		専門実習科目			コース科目				
	20単位以上		10単位			コース共通科目	コース必修科目 (1年次に1コースを選択、選択したコースのうちから6単位を取得する)			
単修了要件	20単位以上		10単位			12単位以上	6単位	6単位	6単位	
			48単位以上			(現職教員院生で専門実習科目の一部を免除された者は、免除された単位数を修了に必要な単位数から減じる)				

学校現場の教育課題を包括的・体系的に理解し、教員としての高度な力量形成にとつての基盤をなす科目群です。教育課程、教科指導、生徒指導、学級・学校マネジメント、現代の学校と教師などについて幅広く学びます。本研究科では共通基本科目の他に独自領域として「国際教育に関する領域」を設けており、グローバル化が進む教育現場に対応できる力を獲得することができます。

共通基本科目一覧

第1領域：教育課程の編成・実施に関する領域
カリキュラムデザインの理論と方法
第2領域：教科等の実践的な指導方法に関する領域
授業デザインの理論と方法
教育方法・学習科学の理論と実践
第3領域：生徒指導、教育相談に関する領域
臨床教育の理論と方法
共生社会時代の生徒指導・教育相談実践演習
第4領域：学級経営、学校経営に関する領域
学校マネジメントの理論と実践
私立・公立における特色ある学校づくりの実践
共生社会時代の学級づくり実践演習
第5領域：学校教育と教員の在り方に関する領域
現代の学校・教師と教育実践A
現代の学校・教師と教育実践B
第6領域(独自領域)：国際教育に関する領域
国際教育の理論と方法

長期間の実習で、教科指導、生徒指導、学級経営等の実務に関わることによって、実践的な指導力の獲得を目指します。学校現場での体験にとどまらず、共通基本科目やコース科目で学修した理論知を実践化する方法や実習で得た実践知を理論化する方法も学びます。学部新卒院生の実習は、連携している5つの教育委員会及び立命館の附属校の協力のもと、連携機関内の小学校、中学校、高等学校で実施します。また、現職教員院生、本学附属校の院生講師、公立学校非常勤講師の実習は、原則として、勤務校で実施します。

専門実習科目一覧

教職専門研修1	教職専門研修3
教職専門研修2	教職専門研修4



実務家教員が語る教職大学院が目指すもの -学び続ける教員の養成を目指して-

立命館大学大学院教職研究科 准教授 伊藤 陽一



「量の上で理論書を読んでも、泳げるようにはなれない。」と言って「プールにいきなり飛び込んでも、泳げるようにはなれない。」ことは経験上の真実であり、この両者を往還するのが教職大学院での学びといえます。教職経験のない学部新卒院生は学校現場での総計10週間に及ぶ実習とそれを元にした理論的な省察を通して、また、現職教員院生は自己の教育実践を様々な理論を活用・再吟味し視野を広げることを通して、教育に関する考察を深めることが可能となります。学びを深めるためには主体性と探究心が不可欠ですが、研究者教員と実務家教員のコラボレーションが皆さんを支えます。

目指すべき次世代の学校・教育現場では、既成の理論や経験則だけでは対応できない課題が次々と生まれています。これらの課題を的確に分析し、解決していくための手がかりと力量を身につけるために、私たちと共に学びを深めていきましょう。意欲的で向上心のある方々の入学を心から期待しています。

コース科目は、「コース共通科目」と「コース必修科目」に区分して配置されています。本研究科では「臨床教育」、「教育方法・学習科学」、「国際教育」と3つのコース(履修モデル)を設けていますが、選択したコースの内容を深める「コース必修科目」だけではなく、教員としての総合的な資質能力を向上させることを目指し、どのコースの院生にも履修が望まれる「コース共通科目」を配置しています。

「コース必修科目」は、院生の問題関心やニーズに応じるため、他コースの科目の受講も可能としていますが、修了に必要な単位数には含まれません。

コース科目一覧

コース共通科目一覧		コース必修科目一覧	
教育実践高度化演習1※1	外国人児童生徒支援論	臨床教育コース	
教育実践高度化演習2※1	国際交流プログラムデザインの理論と方法	学校におけるメンタルヘルスの理論と実際	
教育実践高度化演習3※1	学力の理論と評価の実際	生徒指導上の諸課題の理解とその対応	
教育実践高度化演習4※1	授業開発研究※5	SEL(社会性と情動の学習)の実践的アプローチの現状と課題	
学校教育実践研究※2	国語科内容開発研究	教育方法・学習科学コース	
実践教育特殊講義	社会科内容開発研究	学習意欲の理論と実際	
学校マネジメントの理論と実際(単位互換科目)※3	算数・数学科内容開発研究	授業実践の高度化と授業研究	
学校におけるICT活用※4	理科内容開発研究	教科横断型授業の実践と課題	
学校内外の連携による児童生徒支援	英語科内容開発研究	国際教育コース	
人間理解・対人援助の理論と方法	小学校英語教育実践研究	開発教育プロジェクトの実践と課題	
インクルーシブ教育システムと特別支援教育の新展開	保健体育科内容開発研究	グローバル・シティズンシップ教育の構想と課題	
キャリア教育の理論と実践	道徳科内容開発研究	IB教育の理論と実践	

※1 コース共通科目のうち「教育実践高度化演習1」「教育実践高度化演習2」「教育実践高度化演習3」「教育実践高度化演習4」は必修科目 ※2 学部新卒院生対象の履修指定科目
 ※3 京都教育大学大学院連合教職実践研究科ならびに北海道教育大学大学院教育学研究科提供の単位互換科目、現職教員院生のみ履修可 ※4 履修推奨科目 ※5 学部新卒院生のみ履修可

課外プログラム

海外研修プログラム

2025年度は台湾での研修を実施。大学からの一部補助金あり。

2年間の履修イメージ

学びのステージ	1年次				2年次							
	1 semester		2 semester		3 semester		4 semester					
	4・5月	6・7月	8・9月	10・11月	12・1月	2・3月	4・5月	6・7月	8・9月	10・11月	12・1月	2・3月
学部の新卒院生	共通基本科目 学びの往還 教育実践高度化演習1	共通基本科目 学びの往還 教育実践高度化演習2	共通基本科目 学びの往還 教育実践高度化演習2	共通基本科目 学びの往還 教育実践高度化演習2	共通基本科目 学びの往還 教育実践高度化演習2	共通基本科目 学びの往還 教育実践高度化演習2	共通基本科目 学びの往還 教育実践高度化演習2	共通基本科目 学びの往還 教育実践高度化演習2	共通基本科目 学びの往還 教育実践高度化演習2	共通基本科目 学びの往還 教育実践高度化演習2	共通基本科目 学びの往還 教育実践高度化演習2	共通基本科目 学びの往還 教育実践高度化演習2
現職教員院生	共通基本科目 学びの往還 教育実践高度化演習1	共通基本科目 学びの往還 教育実践高度化演習2	共通基本科目 学びの往還 教育実践高度化演習2	共通基本科目 学びの往還 教育実践高度化演習2	共通基本科目 学びの往還 教育実践高度化演習2	共通基本科目 学びの往還 教育実践高度化演習2	共通基本科目 学びの往還 教育実践高度化演習2	共通基本科目 学びの往還 教育実践高度化演習2	共通基本科目 学びの往還 教育実践高度化演習2	共通基本科目 学びの往還 教育実践高度化演習2	共通基本科目 学びの往還 教育実践高度化演習2	共通基本科目 学びの往還 教育実践高度化演習2

※ 現職教員院生の実習免除は、入学後の審査により決定します。

時間割イメージ

	月	火	水	木	金
1時限目 [09:00~10:30]	フィールドワーク、学校ボランティア、公立学校非常勤講師や附属校院生講師としての勤務など				
2時限目 [10:40~12:10]	移動				
3時限目 [13:00~14:30]	移動				
4時限目 [14:40~16:10]	移動				
5時限目 [16:20~17:50]	共通基本科目、コース科目の履修 (大学院)				
6時限目 [18:30~20:00]	移動				

教職研究科では、午前中は各講義でのフィールドワークなどを行う時間とし、午後を中心に講義を開講しています。また、長期履修制度によって学修する現職教員院生のために3年に一度は必ず必修科目が6時限目(18:30開始)に開講されるよう時間割を編成しています。(2026年4月現在)

TOPICS

TOPICS 1 大学院での学びの集大成「教育実践探究論文」

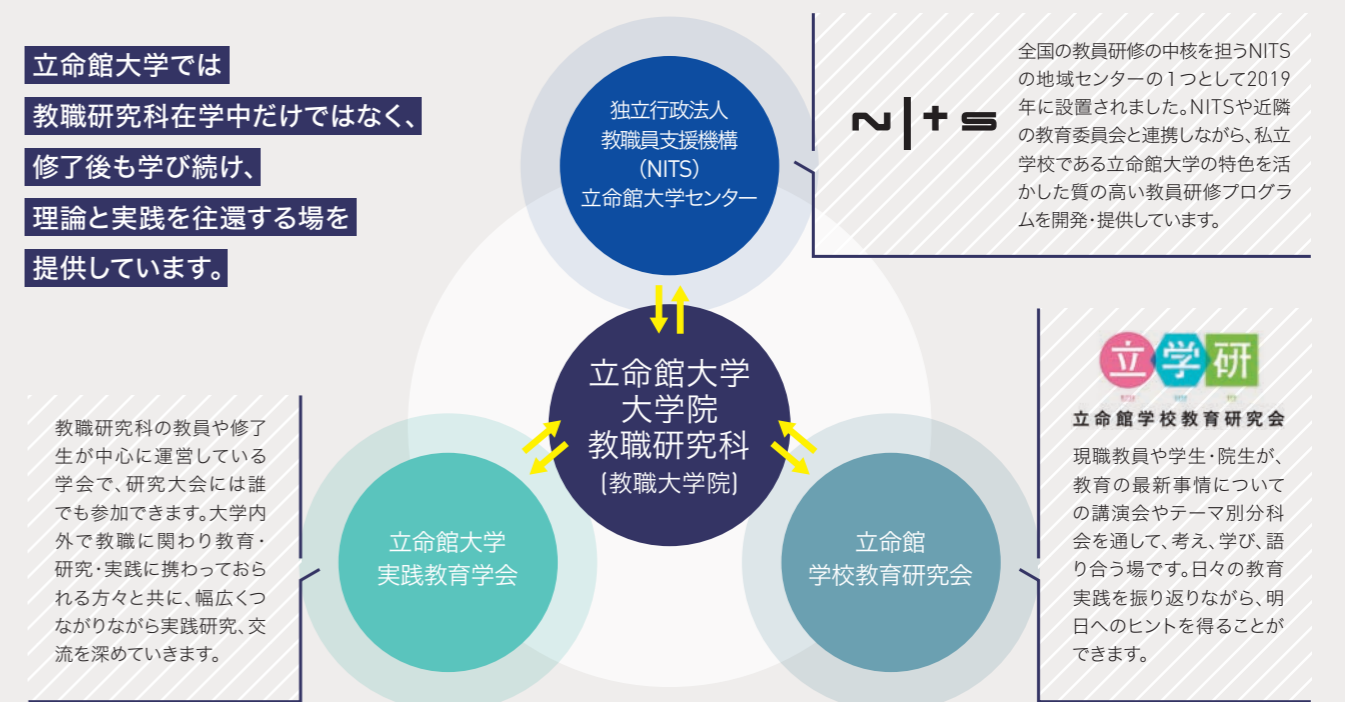
論文テーマ事例

- | 臨床教育コース | 教育方法・学習科学コース | 国際教育コース |
|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 私立一貫校における「性の多様性」教育導入の課題と展望—教員の意識向上を目指して— 中学校における不登校支援の在り方—別室登校生徒に焦点を当てて— ピア・サポート活動導入にむけた教員研修—児童、教員とともに支え合う学校づくりを目指して— いじめ重大事態に係る調査報告書の提言を受けた取組みの課題—教育委員会の施策に関する検証報告書の分析を通して— | <ul style="list-style-type: none"> 「文章形式を活用できる力」を育む説明的文章の学習指導研究—「比べ読み」・「説得性」の観点を用いて— 論理的・批判的思考力の素地を養う英語授業の開発— Writer Responsible Writing を通して— 「ずれ」によるメタ認知を活用した思考力・判断力育成の研究—中学校地理的分野に焦点をあてて— 高校数学における問題解決後の「教訓帰納」による学習行動の変容 | <ul style="list-style-type: none"> 総合的な探求の時間におけるグローバルシティズンシップ育成に関する研究—評価の改善を中心に— 生徒の探究する力を育成する新科目「Well-being」の創造— TOK のカリキュラムをもとに— 「歴史総合」の理念を実現する IB 型学習指導案の提案—「本質的な問い」を議論する単元「ナチズム」を通して— 外国人・外国にルーツをもつ生徒への発達支持的生徒指導—共生社会時代の教育支援の実践をめざして— |



TOPICS 2 修了後も継続して学び続ける場があります

立命館大学では
教職研究科在学中だけでなく、
修了後も学び続け、
理論と実践を往還する場を
提供しています。



CAREER

学部新卒院生へのサポート

進路状況 ~教員採用に確かな実績があります!~

2025年度修了生の内訳 (学部新卒院生25名)



教員就職率
96.0%

◆ 採用先の主な自治体	◆ 校種
2025年度 京都府、京都市、滋賀県、大阪府、大阪市、兵庫県、神戸市、東京都、岐阜県、福岡県、山口県、私立学校	2025年度 小学校(5名)、中学校(11名)、高等学校(6名)、中高一貫校(1名)、特別支援学校(1名)

就職のサポート ~充実した教員採用試験対策を行います!~

本研究科では学校現場に精通している実務家教員が中心となって、教員採用試験に向けて、きめ細かい進路指導・相談を行っています。また、教職研究科教員全員が、院生の自主ゼミをバックアップするなど教員採用試験に向けた準備を支援しています。

その他にも、立命館大学の教職支援センターでは、教職を志望する学生に教員採用試験対策講座を実施しており、教職研究科の院生も受講することができます。

さらに、教員採用試験では、教職大学院の院生を対象にした推薦制度を設けている自治体もあり、1次選考試験免除などの優遇措置を受けることもできます。このような教職研究科の豊かな教育資源を活用し、教員になる夢を叶えましょう。



学びながら働ける仕組み

■ 公立学校での非常勤講師について

京都府教育委員会、京都市教育委員会、滋賀県教育委員会、大阪市教育委員会と連携して実施する、大学院で学びながら各自治体の公立学校の非常勤講師として収入を得て教師としての実践力を高めることができる仕組みがあります。「教職専門研修」は勤務校で行います。詳細は教職研究科HPをご覧ください。

■ 立命館附属校での教職大学院院生講師制度について

大学院で学びながら立命館附属校で勤務し、授業や諸校務に従事することができる制度です。大学院で学んだ内容を附属各校の特色ある最先端の教育現場で実践し、教員としての資質能力を向上させることができます。詳細は立命館一貫教育部HPをご覧ください。



制度紹介



動画紹介

他校種・他教科の免許取得	日本学生支援機構奨学金返還免除制度	採用猶予制度を活用した進学
--------------	-------------------	---------------

所定の手続きにて許可された者は、学部の授業を受講することで(履修料は不要)、立命館大学で取得可能な他校種・他教科の一種免許状の取得を目指すことができます。

教職大学院修了の翌年度から正規教員(国公立)に採用された方への日本学生支援機構の大学院第一種奨学金返還免除制度。詳細は日本学生支援機構のHPをご覧ください。



学部時代に教員採用試験に合格した人でも、多くの自治体が設けている採用猶予制度(採用候補者名簿登載期間の延長)を活用することで、教員採用試験合格の状態のまま、教職大学院に進学し、学修することができます。

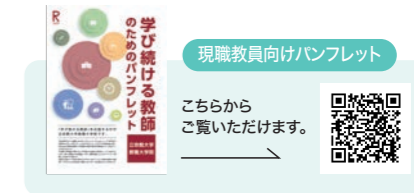
SUPPORT

現職教員院生へのサポート

オンライン受講で修了が可能に!

大学院で学びたいが、職場を離れることができないという悩みを持っている現職教員も多いと思います。そのような現職教員が、勤務しながら大学院に進学することができるよう、長期履修制度を活用した現職教員は、2023年度よりオンライン受講による修了が可能となりました(一部授業は対面実施)。そ

他、次のような様々な現職教員院生が学びやすい環境を整備しています。個々の条件に合った学び方を選択し、全国から集まった多彩な現職教員院生や学部新卒院生との学び合いによって、自らの学修課題を探究することができます。



長期履修制度

職業を有することにより、学修・研究時間を十分に取ることができず標準修業年限で修了することが困難な場合、標準修業年限(2年)を超え、在学年限(4年)の範囲内の期間において計画的に教育課程を履修するこ

とを目的とした制度です。入学前の事前申請による長期履修制度を活用することで、2年間の学費で、3年間または4年間学ぶことができます。

授業時間割における工夫

授業は、平日の夜間時間帯や休暇中の集中講義期間にも開講しています。長期履修制度を活用する現職教員院生のために、3年間で4~6限目の科目がローテーションする時間割を編成しており、3年に一度は、必ず夜間時間帯に必修科目・選択科目が開講されるよう工夫をしていま

す。長期履修制度を活用すれば、夜間時間帯の開講科目のみの履修によって3年間で修了することができます。また、教職研究科のみ夜間時間帯(6時限目)を18:30~20:00とするなど、現職教員院生の履修に配慮しています。

長期履修制度活用者を対象としたオンライン受講

さらに、「長期履修制度」を活用する現職教員院生は、夜間時間帯(6時限目18:30~20:00)に開講される科目のライブ配信をオンライン受講することが可能となり、3年間で大学院を修了できるようになります(ただし、授

業の一部は週末に対面で実施されます)。このことにより、遠隔地からでも授業に参加することができます。また、オンライン受講生は郵送によって、本学図書館の書籍を無料で利用することができます。

「教職専門研修」の履修に関する特例

一定期間の実務経験のある現職教員院生については、本人の申請と教職研究科での審査を経て、「教職専門研修」の一部の履修が免除されます。一部が免除される場合でも、勤務の中で見出した課題を大学院の学修と往還させ、教職研究科専任教員の指導のもとで、課題克服の方策

を探究することができます。なお、現職教員院生の「教職専門研修」(専門実習)は、勤務校での実施を基本としていますが、受け入れが可能な場合には、立命館の附属校などでも実施することができます。

教員の勤務経験年数	単位免除科目(単位数)	履修が必要な科目(単位数)
3年未満	なし	教職専門研修1(3単位)、教職専門研修3(4単位)、教職専門研修4(3単位)
3年以上7年未満	教職専門研修1(3単位)	教職専門研修3(4単位)、教職専門研修4(3単位)
7年以上	教職専門研修1(3単位)、教職専門研修3(4単位)	教職専門研修4(3単位)

※免除された単位数は修了に必要な単位数から減じます。

京都教育大学大学院連合教職実践研究科、北海道教育大学大学院教育学研究科との単位互換制度

現職教員院生を対象に、両大学院で開講される学校経営に関する科目り、現職教員院生にとって受講しやすい環境を整えています。を受講できます。いずれも夜間時間帯でのオンライン開講を予定してお

1年次だけ現場を離れて修了することが可能(大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例)

教職研究科では、大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例による学修が可能です。大学院修学休学制度などを活用して1年次のみフルタイムで学修し、2年次は現任校で勤務をしながら、夜間時間に開講

される科目の履修や「教育実践高度化演習」(ゼミ)の指導を受けることなどで、2年間で修了することが可能です。

FACULTY

教員紹介

教職研究科の専任教員

※教員および担当科目は2026年4月時点



准教授 | 天野 誠

担当科目

「学校マネジメントの理論と実践」、「現代の学校・教師と教育実践」、「学校教育実践研究」、「教育実践高度化演習」、「教職専門研修」他

研究内容

これからの社会で求められる21世紀型能力は思考の土台となる「基礎力」、課題を発見し、考える「思考力」、みんなで協力しながら解決策を見だし、持続可能な社会を構築する「実践力」。これらの力を子どもたちに学校の教育活動の中でいかに育んでいくか。定期考査に片寄らない多様な評価のあり方も含めて研究していきます。



教授 | 荒木 寿友

担当科目

「授業デザインの理論と方法」、「道徳内容開発研究」、「開発教育プロジェクトの実践と課題」、「授業開発研究」、「教育実践高度化演習」、「教職専門研修」他

研究内容

教育方法、カリキュラム開発の観点から、国内においては主として道徳教育や探究、ワークショップの研究、国外においては途上国において教育系NGO活動を行っています。またリフレクションによって教師自身が教育実践やあり方を再構築していこうとする教師教育の研究活動も行っています。



教授 | 伊田 勝憲 (副研究科長)

担当科目

「共生社会時代の生徒指導・教育相談実践演習」、「共生社会時代の学級づくり実践演習」、「生徒指導上の諸課題の理解とその対応」、「現代の学校・教師と教育実践」、「教育実践高度化演習」、「教職専門研修」他

研究内容

臨床教育学・教育心理学の観点から、学習への動機づけとキャリア発達・アイデンティティ形成の関係に注目しています。近年は、児童生徒理解における「生物・心理・社会(BPS)モデル」の活用、いじめ重大事態など、教育と医療・福祉・司法等が交わるSTEAM的なテーマやトピックにも関心を広げ、共生社会の実現に向けて期待される日常の教育活動のあり方を探っています。



准教授 | 井戸 仁

担当科目

「教育方法・学習科学の理論と実践」、「共生社会時代の生徒指導・教育相談実践演習」、「生徒指導上の諸課題の理解とその対応」、「理科内容開発研究」、「教育実践高度化演習」、「教職専門研修」他

研究内容

児童・生徒理解に必要なアプローチや学級経営のあり方を、Q-U検査といった心理検査を活用して実践的に考察し、教員の無意識の言動等が予想外の大きな結果を招くヒドゥンカリキュラム(隠れたカリキュラム)についても研究中。また、「面白実験」を切り口に、教科書における「関心意欲を高める導入の工夫」や国内外の理科・科学教育の研究もしています。



准教授 | 伊藤 陽一

担当科目

「授業デザインの理論と方法」、「共生社会時代の学級づくり実践演習」、「授業実践の高度化と授業研究」、「教育実践高度化演習」、「教職専門研修」他

研究内容

子ども達が前のめりになって問題解決に取り組む授業はどのようにしたら実現できるのか、教師はどのように授業を観察し省察すれば授業力が向上するのか、授業研究会はどのように企画・運営すれば価値あるものなるのかを社会科を核として研究しています。そして、子ども・教師が共に学ぶ場、成長していく場としての「学級づくり」についても研究を進めています。



教授 | 井上 雅彦

担当科目

「カリキュラムデザインの理論と方法」、「国語科内容開発研究」、「授業実践の高度化と授業研究」、「教育実践高度化演習」、「教職専門研修」他

研究内容

主体的・対話的で深い学び、個別最適な学び、自己調整学習といった授業改善に関わる指導法に関する研究や、ディベートなどを中心にした国語科における「話すこと、聞くこと」領域の指導や「読むこと」領域の指導についての研究、そして国語科と他教科・総合的な学習の時間との連携やカリキュラムなどについて取り組んでいます。



准教授 | 澤 由紀子

担当科目

「教科横断型授業の実践と課題」、「現代の学校・教師と教育実践A、B」、「授業開発研究」、「学校教育実践研究」、「教育実践高度化演習」、「教職専門研修」他

研究内容

当事者意識を持った持続可能な社会の作り手を育てるために求められる資質能力についてはすでに示されていますが、その実質化、具体化が重要になってきます。どうすれば学校で、教室で、1時間1時間の授業で、児童生徒たちにその資質能力を育むことができるのでしょうか。このことをテーマに各授業の中で考えていきたいと思います。



教授 | 神藤 貴昭

担当科目

「教育方法・学習科学の理論と実践」、「学校におけるメンタルヘルスの理論と実践」、「学習意欲の理論と実践」、「教育実践高度化演習」、「教職専門研修」他

研究内容

学業や仕事、地域社会において生じる様々な心理的事象に興味を持っています。具体的には、児童生徒や教師、さらには企業勤務者における、心理的ストレスや動機づけ、メンタリングやジェネラティビティといったことについて研究をしています。また、教育場面での相互行為による、もの見方や感じ方の変容に関する研究にも取り組んでいます。



准教授 | 竹中 宏文

担当科目

「私立・公立における特色ある学校づくりの実践と課題」、「教育実践高度化演習」、「教職専門研修」他

研究内容

立命館の附属校を含め中高で主に英語を教えてきました。英語科教育が専門ですが、近年のIT技術の発達により「将来、英語教員の仕事はなくなるのではないかと危惧しています。現在は、AIを活用した英語教育のあり方や生成AIによる語学教育の研究もしています。未来を恐れるのではなく、未来が楽しいと思える教育をともに創っていきましょう。



准教授 | 田中 博

担当科目

「カリキュラムデザインの理論と方法」、「授業デザインの理論と方法」、「国際教育の理論と方法」、「算数・教科内容開発研究」、「教育実践高度化演習」、「教職専門研修」他

研究内容

立命館附属校で長年の教員生活を送ってきました。教科は数学です。スーパーサイエンスハイスクール事業に深く関わってきた経験から、「国際科学教育」を研究分野としています。立命館が持つ、豊富な国際教育手法を多くの先生方に学んでいただき、世界の舞台上で活躍する子ども達の輩出につながってくればと願っています。



教授 | 沼田 あや子

担当科目

「SEL(社会性と情動の学習)の実践的アプローチの現状と課題」、「臨床教育の理論と方法」、「教育実践高度化演習」、「教職専門研修」他

研究内容

臨床発達心理学と教育学の両方の視点から子どもの理解に近づくことに関心を持っています。現在は発達に偏りのある女の子の研究をしています。生きづらさを抱える子どもや保護者がどうやったら元気になれるかをずっと考えてきました。研究の出発点が母親支援だったことから、ジェンダーの問題に取り組むことがライフワークです。



准教授 | 藤本 睦子

担当科目

「臨床教育の理論と方法」、「私立・公立における特色ある学校づくりの実践」、「教科横断型授業の実践と課題」、「教育実践高度化演習」、「教職専門研修」他

研究内容

教育を取り巻く環境が大きく変化している状況のなか、多様化する児童生徒の諸課題の解決に向けて、子ども理解、支援のあり方、関係諸機関との連携など実践的な方法や理論について研究しています。また、これからの時代に求められる資質・能力を育むため「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した教育活動についても研究しています。

教員コラムのご案内

教職研究科では、「子ども・教育・学校を語る」と題して、教員がリレー式で月に1回コラムを書いています。興味深い内容となっていますので、ぜひご覧ください！

掲載場所

教職研究科 HP ▶ 左メニュー ▶ 教員コラム ▶



教職研究科 授業担当教員 (2026年4月時点)

教授 | 江口 朗子 (文学部)

担当科目

「小学校英語教育実践研究」

教授 | 大友 智 (スポーツ健康科学部)

担当科目

「保健体育科内容開発研究」

教授 | 佐野 愛子 (文学部)

担当科目

「英語科内容開発研究」

教授 | 中村 健 (経済学部)

担当科目

「学校内外の連携による児童生徒支援」

教授 | 中村 正 (産業社会学部)

担当科目

「人間理解・対人援助の理論と方法」

授業担当講師 | 秋庭 裕子

一橋大学 国際教育交流センター 准教授

担当科目

「国際交流プログラムデザインの理論と方法」

授業担当講師 | 石井 英真

京都大学大学院教育学研究科 准教授

担当科目

「学力の理論と評価の実践」

授業担当講師 | 井上 志音

灘中学校・灘高等学校 教諭 日本国際ハロリア教育学会 理事

担当科目

「IB教育の理論と実践」

授業担当講師 | 尾崎 拓郎

大阪教育大学 理数情報教育系 准教授

担当科目

「学校におけるICT活用」

授業担当講師 | 新谷 遥

担当科目

「外国人児童生徒支援論」

授業担当講師 | 堀田 千絵

京都市立芸術大学美術学部 准教授

担当科目

「インクルーシブ教育システムと特別支援教育の新展開」

授業担当講師 | 三川 俊樹

追手門学院大学心理学部 教授

担当科目

「キャリア教育の理論と実践」

授業担当講師 | 藤村 祐子

滋賀大学 教育学部 准教授

担当科目

「学校マネジメントの理論と実践」

VOICE

院生・修了生からのメッセージ

院生からのメッセージ

三島 伽月さん 臨床教育コース 2年次生 佛敎大学教育学部出身 京都府立小学校 非常勤講師



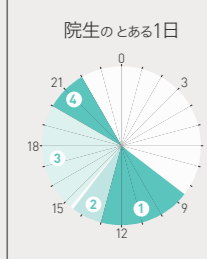
私は学部時代のゼミで様々な視点から教育について考える中で、その奥深さや面白さを実感し、さらに学びを深めたいと感じようになりました。一方で、卒業後に教員として現場に立つことに不安もあり、今の自分に出来ることをすべてやり切りたいと考え、大学院への進学を決意しました。

立命館教職大学院に入学して最も良かったことは、教育に対して熱い思いを持つ仲間に出会えたことです。信念や考え方は一人ひとり異なり、互いに刺激を受けながら学び合える環境に日々励まされています。尊敬できる大好きな

仲間と共に学べることが、私の大きな支えです。

将来は、子どもたちの目線に立ち、共に考え、笑い、成長を支援できる教員になりたいと考えています。自らも学び続けながら、子ども一人ひとりに寄り添える存在を目指します。

教職研究科は、私のように不安を抱えている方や、仲間と共に教育について深く考えたい方にとって自分自身と向き合いながら成長できる環境です！



- 院生のとある1日
- 8:30~13:00 京都府立小学校 非常勤講師として勤務
小学校で支援をしています。お休みの先生の代わりに授業をしたり、午前の校外学習の引率をしたり、様々な役割を任せていただく中で教員のことや、自分自身のことを知るきっかけになります。毎日が学びです！大好きな給食を食べながら帰ります。
 - 13:00~14:30 電車・大学院 朱雀キャンパスへ移動・自習
4限が始まるまでの時間で課題をしたり、その日の発表資料を確認したりします。一人ひとりに対して自習机が設けられているので集中して作業を行うことができます。
 - 14:40~20:00 大学院 グループワークや実践を用いた授業が多く、毎回頭をフル回転させて取り組んでいます。難しい、と思うこともありますがたくさん仲間がいるので安心して学ぶことができます。毎回やり切った！と達成感を持つことができます。
 - 20:00~22:00 大学院 出来るだけその日のうちに課題を終わらせるよう心がけています。また、グループで発表を行うことも多いため皆で集まる時間にもなります。「課題が分からない！がんばれない！」と弱気になった時には院生が集まっている部屋に行けばお喋りをしながら、励まし合い、一緒に頑張ることが出来ます！

青木 陽音さん 国際教育コース 2年次生 立命館大学文学部出身 京都府立中学校 非常勤講師



大学院への進学は、学部時代から一つの選択肢として考えていました。教職課程で学んできた自分が、4月から教壇に立つことを考えたとき、教職への強い思いがある一方で、拭いきれない不安を感じていました。教員採用試験に合格し、その現実が目前に迫ったことで、教育について専門的に学びたいという気持ちが一層強くなり、進学を意図するようになりました。

しかし、実践力は現場でしか身につかないこと、同年代が現場で経験を積み成長していくことを思うと、進学への決断は容易ではありませんでした。そんな中、立命館大学教職研究科は教育委員会と連携しており、採用猶予を活用しながら非常勤講師として現場に立てることを知り、理

論と実践を同時に積み重ねられるこの環境こそが、自分にとって最良の選択だと考えました。

入学後は、学部卒生と現職教員が同じ教室で学ぶことができ、模擬ケース会議など「対話」を中心とした活動を通して互いの経験や考えを深め合う環境に大きな刺激を受けています。学生でありながら教壇に立つ経験は、自身の弱さと向き合う場面もありますが、その一つが学びの更新につながっていると実感しています。これからは、生徒に寄り添い、ともに成長できる教員を目指していきたいです。迷いながらも学び続けたい方にとって、確かな一歩を後押ししてくれる場所だと思います。

大木 康平さん 教育方法・学習科学コース 2年次生 立命館大学理工学部出身 立命館附属校 院生講師



私は学部時代、教育実習で様々な教師としての課題が見え、教育についてもっと深く学びたいという考えを持ち、教育・教職系の大学院に進学したいと思うようになりました。他の大学院も検討しましたが、附属校での院生講師制度が充実しており、大学院で学んだことをすぐに実践できる本研究科を志望しました。また、給与をもらいながら大学院に通えるという魅力でした。

本研究科の魅力としては、様々な校種・キャリアを歩んでこられた現職の先生方と学部卒生がともに肩を並べて、意見を交流できることです。そして、教授

も研究科教員と実務家教員がおり、普段の院生講師としての悩みや、研究についての相談を、理論と実践の両方の立場から助言をいただけます。また、院生講師としての勤務校が研修校となるので、実践研究もとてもやりやすいです。

大学院では同じく教育に対する高い志を持った仲間との出会いがあり、学部ではできなかった深い議論をする中で、自分自身を見つめ直すきっかけを多くいただきました。是非大学院で一緒に学びましょう。

中尾 勇樹さん 臨床教育コース 2年次生 大阪市立小学校教員(現職教員院生、オンライン受講生)

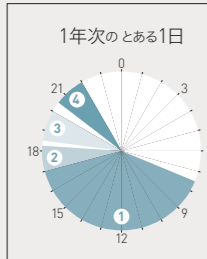


立命館大学大学院教職研究科の目指す教員像の中に「多様な学校現場の課題に高度な実践力で対応できる教員へ」と書かれています。この大学院で専門性の高い知識や技能を身につけるべく研究に励むことで、学校現場で日々向き合う課題について専門的な知見を用いて研究することができ、様々な不安を抱える子どもや保護者、教員に寄り添った教育ができることを志望しました。

入学してみると、各々の院生が自分の教育観や理念をもち、目指したい方向

へ向かっていました。自分の興味のある分野と紐づけて発表し合う中で、切磋琢磨し合える環境が「何事にも変え難い財産だ」と感じています。

そんな私が目指す教員像は、児童と正対し続ける教員です。なぜ教育があるのか。根本を見つめながら、日々目の前の児童と向き合っていく決意です。ぜひ一緒に、学び合いましょ。そして自身の目指すものへ一歩ずつ進んでいきましょ！



- 1年次のとある1日
- 7:30~17:00 勤務校 6年生の学級担任・学年主任のため6時間目まで授業を行います。放課後は、会議に参加したり児童の学習を見たりします。
 - 17:00~18:15 電車 移動 電車の中では、勤務校の授業準備や読書、大学院の課題や講義の復習をします。
 - 18:30~20:00 自宅 大学院のオンライン授業 カリキュラム作成や道徳科教育の指導案作成、探究論文に向けて構想を練るゼミなど様々な講義について学びます。どれも新たな視点を取り入れられ、視野が広がります。
 - 20:30~22:00 自宅 復習・課題 講義の復習をしたり、課題作成をしたりします。この時間が特に大切でした。ゆっくと振り返る時間を取り、改めて興味があることやもっと調べてみたいこと等に時間を使います。

修了生からのメッセージ

大八木 萌さん 臨床教育コース 2026年3月修了 京都府中学校教員



私は、大学卒業後の進路を考える中で教員になりたいという思いは持っていたものの、教育に関する知識の不足を実感していたことから、教職に就くことに不安を感じていました。そこで、教育について専門的に深く学ぶとともに、自分自身と改めて向き合いたいと考え、教職大学院への進学を決めました。

本研究科では、教育現場に即した知見を持つ先生方や、豊富な現場経験を有する現職院生、さらに多様な分野を学んできた学部新卒生と共に学ぶことで、教育的事象を多角的に捉える力を身につけることができたと感じていま

す。大学院で出会った同じ目標を持つ仲間と共に支え合い高め合った経験は、これからの教員生活で生き続ける大切な財産になると感じています。

4月からは中学校教員として教壇に立ちますが、子どもたちの可能性を引き出す教育実践ができるよう、今後も学び続ける姿勢を大切にしたいと考えています。仲間と共に教員としての専門性を高めたいと考えている方にとって、本研究科での学びは大きな成長の機会になると思います。

藤原 美桜さん 国際教育コース 2026年3月修了 神戸市中学校教員



私は教育実習を経て教員になると決心しましたが、このまま教壇に立てるのかという不安がありました。また、社会科の免許に加え、長年親しんでいた語学で生徒と向き合いたいと思い、英語科の免許取得を希望していました。その実現のため、他教科の免許を取得しながら、経験を重ねることができた教職大学院で2年間を過ごすことを決めました。

この大学院では、同じ将来を見据え切磋琢磨できる仲間や、学生と真剣に向き合ってくださる先生方に会えます。さらに、ここでは教育を多様な視点

で見つめ、考え、実践する機会が多くあります。その中で私自身、新しく挑戦したいことが沢山できました。そんな挑戦を応援し、また、共に一生懸命になってくれる環境がここにはあります。

熱い気持ちを持った仲間に出会えたことで、私も同じように学び続ける情熱のある教師になりたいと強く思っています。

教職大学院には価値ある「時間」と「出会い」が待っています。この環境で人生の支えとなるものを手に入れてください。

森田 勝也さん 教育方法・学習科学コース 2026年3月修了 京都府高等学校教員



私が立命館大学教職研究科を志望した理由は、変化の激しい今の時代に求められる教育について理論を学びたかったからです。特に学習方法に興味があり、自己調整学習をテーマに研究しました。

私は3年間、現場での勤務を続けながら対面で受講しました。立命館大学教職研究科の先生方は質問や相談に丁寧に答えてくださる方ばかりで、授業の前後に話しかけやすいことが対面受講のメリットだと感じました。

授業では、研究者・実務家のそれぞれの立場から今の時代の教育に必要な知

識を教えてください、加えてフィールドワークやゲストスピーカーによる講演など、理論を実践に活用する事例もたくさん紹介していただきました。理論を学ぶことにより、日々の実践に対する理解が深まるとともに、新たなことに挑戦したい気持ちが芽生え、意欲の向上につながります。忙しい日々を過ごされている現場の先生方、深く省察したり、新しい実践を計画したりする時間を生み出すために大学院で学んでみませんか。

授業を受けた院生の声

学校現場での長期研修では、学部時代の教育実習だけではわからなかった校務分掌や学校運営に関わることができ、有意義でした。

重要と思いつつ、これまで教育法規をたどることは難しく感じ、避けていました。しかし、その目的を丁寧に、また多くの資料を配布いただいたことは、私の今後の貴重な財産となりました。

アットホームな雰囲気、自由に議論ができる授業でした。広い視点から教育をとらえる機会を頂き、感謝しています。改めて、教職大学院で学ぶ必要性を感じました。

教師になるにあたって、これまで漠然とした課題意識を持っていましたが、教職大学院で学ぶことにより、それが明確になり、目標を達成するための方法が明らかになりました。

キャリア教育が選択や決定だけでなく、人生、生き方を築いていくために必要な教育なのだ実感できる授業でした。今後の大学院での学び、現場での実践だけでなく、自分自身を振り返ったり問い直したりする大変貴重な機会であったと思いました。

学校現場からはなれる不安がものすごくあったのですが、現場にいたら学べなかったことをたくさん知ることができました。時間が過ぎていく中で立ち止まらなければ気づけなかったことが、授業の中でいろいろとありました。

教職研究科 概要

研究科名	教職研究科	入学定員	35名	学位名称	教職修士(専門職)
専攻名	実践教育専攻	収容定員	70名		

入試情報・学費・奨学金制度等

入試日程と入試方式

実施月	出願期間	試験日	入試方式
7月 入学試験	2026年 6月18日(木)～ 7月 2日(木)	2026年 7月19日(日)	学内進学入学試験 協定校入学試験
9月 入学試験	2026年 8月20日(木)～ 9月 3日(木)	2026年 9月20日(日)	一般入学試験
11月 入学試験	2026年10月15日(木)～10月29日(木)	2026年11月15日(日)※予備日11月22日(日)	社会人入学試験 学内進学入学試験
2月 入学試験	2027年 1月 7日(木)～ 1月21日(木)	2027年 2月 7日(日)※予備日 2月14日(日)	協定校入学試験

※入試に関する情報の詳細は、必ず入学試験要項および立命館大学大学院入試情報サイトで確認してください。
なお、入学試験要項は立命館大学大学院入試情報サイトよりダウンロードができます。

※協定校入学試験は、立命館大学大学院教職研究科の協定校の学生を対象とした入試です。
詳細は協定校を通じて案内します。

大学院入試情報サイト



学費

	1年次		2年次
	立命館大学または立命館アジア太平洋大学出身者	他大学出身者	
入学金	なし	200,000円	なし
授業料(春学期)	501,600円	501,600円	501,600円
授業料(秋学期)	501,600円	501,600円	501,600円
計	1,003,200円	1,203,200円	1,003,200円

(2026年4月現在)

奨学金制度

- 立命館大学大学院1年次対象成績優秀者奨学金
教職研究科で実施する入学試験の合格者のうち、成績優秀者に給付します。支給対象者には入学試験の可否発表時に通知します。
- 立命館大学大学院2年次対象成績優秀者奨学金
教職研究科の2年次(第3 Semester)在学生のうち、成績優秀者を対象に選考の上給付します。

教職研究科で取得できる教育職員免許状の種類

- 小学校教諭専修免許状
- 中学校教諭専修免許状 国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術、家庭、英語、宗教
- 高等学校教諭専修免許状 国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、書道、保健体育、家庭、情報、工業、商業、福祉、英語、宗教

※専修免許状の取得には、一種免許状を取得していることが条件となります。

「学校心理士」の受験資格取得が可能!

本研究科では、一般社団法人学校心理士認定運営機構の定める必要単位を履修し、大学院修了までに「学校心理学」に関する専門的実務経験が1年以上に達する見込み(学部新卒院生は専門研修10単位の履修で代替可)により、在学中に「教職大学院類型」で資格申請および試験の受験資格を得ることができます。なお、教員として専門的実務経験が5年以上ある方は「学校教員類型」での申請が可能です。(詳しくは一般社団法人学校心理士認定運営機構のホームページをご参照ください。)

学修環境

二条駅に隣接する朱雀キャンパスは、学びの拠点であると同時に生活の拠点でもあります。
院生自習室ではキャレル(個人学習ができるブース)が用意されており、キャンパスでの1日はそこから始まります。



院生自習室

院生専用の自習室を設置し、静かな環境の中で学修を進めることができます。



朱雀リサーチライブラリー

教育学、心理学をはじめ、学修に必要な図書や雑誌を配架。整った環境で自習できます。



生協ラウンジ

生協ラウンジでは食料品、文房具、書籍等を販売しています。



教室・ゼミ教室

院生が全員で授業を受けられる大教室からゼミを行う小教室まで授業形態に合わせた教室があります。小教室には大型ディスプレイを設置しており、模擬授業や実習の報告会等に活用できます。



教職研究科共同研究室

PCやBIGPAD(電子黒板)、各種の学校用教科書[デジタル教科書を含む]等を整備している専用の共同研究室です。グループワークや院生と教員の話し合いが行えます。



教職研究科デジタルラボ

オンライン・コンテンツの撮影や編集、配信などができ、また電子情報ボードを整備しており、ICT教育の実践を行うことができます。

POINT 夜間でも利用しやすい学修環境

朱雀キャンパスの「朱雀リサーチライブラリー」(図書館)は、日曜日や大学の休暇期間を除いて9時から22時まで開館しています。本学の他キャンパス図書館の蔵書も「朱雀リサーチライブラリー」に取り寄せて利用することができます。また「院生自習室」や「教職研究科共同研究室」などの学修スペースは夜間でも利用でき、授業終了後もキャンパス内で学修することができます。

Q&A

- Q1** 教職研究科の時間割について教えてください。
A 教職研究科では午前中を各講義でのフィールドワークの時間とし、午後を中心に講義を開講しています。また、長期履修制度によって学修する現職教員院生のために3年に一度は必ず必修科目が6時限目に開講されるよう時間割を編成しています。
- Q2** 現職教員院生も学校での実習をするのですか。
A 現職教員院生も学校での実習を行います。ただし、一定期間の実務経験のある現職教員院生については本人の申請と教職研究科での審査を経て「教職専門研修」の一部の履修が免除されます。詳細は「現職教員院生へのサポート」(P.12)もご覧ください。
- Q3** 入試の前に説明会や授業見学に参加したいのですが。
A 教職研究科の説明会、授業見学については開催日が確定次第教職研究科のHPでご案内していますのでぜひご参加ください。説明会はオンラインで開催されるものもあります。
- Q4** 研究者教員と実務家教員とはどのような役割をもつ先生ですか。
A 研究者教員とは研究分野を専門的に指導する教員です。実務家教員とは学校現場等での実務経験があり、高い実績のある教員です。研究者教員と実務家教員によるチームティーチングにより、理論と実践の往還がより確実なものとなり、教員としての実践的な力量を確実に身につけていくことができます。
- Q5** 入試の過去問題を見ることはできますか。
A 閲覧できます(筆記試験の問題のみ)。大学院入試情報サイトや立命館大学朱雀キャンパスの朱雀独立研究科事務室の窓口で閲覧することができます。
- Q6** 教育職員免許状がなくても教職研究科に入学できますか。
A 本学教職研究科では、学校種・教科を問わず、教育職員免許状を取得していることが入学の条件となります。

立命館大学大学院 教職研究科(教職大学院)

[お問い合わせ先]

立命館大学朱雀独立研究科事務室(教職研究科担当)
〒604-8520
京都市中京区西ノ京朱雀町1 立命館朱雀キャンパス

TEL 075-813-8269

Email kyoken-s@st.ritsumeui.ac.jp

最新情報はホームページで
CHECK!

▶ 立命館大学大学院教職研究科ホームページ

研究科紹介動画もご覧いただけます。

<https://www.ritsumeui.ac.jp/gsppte/>



▶ 立命館大学大学院入試情報サイト

<https://www.ritsumeui.ac.jp/gr/>

▶ 立命館大学大学院教職研究科修了生サイト

<https://www.ritsumeui.ac.jp/gsppte/graduate/>



[アクセス]

最寄り駅

- JR山陰本線「二条」駅下車 ————— 徒歩 約2分
- 京都市営地下鉄東西線「二条」駅下車 — 徒歩 約2分
- 阪急「大宮」駅下車 ————— 徒歩 約10分

所要時間

